

礼宮文仁親王殿下御参拝



毎月十五日発行
 発行所 宗像大社
 〒811-85 福岡県宗像郡玄海町
 電話 0940-62-1811代
 定価 一年送料共 1000円

神具、装束
 結婚式場用品
 九州店
 本社
 株式会社 井筒
 福岡市博多区東公園二丁目(八八三番)
 電話福岡(092)六五二九四八(一六〇番)
 京都市下京区清水五条八丁目(一六〇番)
 電話京都(075)三四三三四(一六〇番)
 電話京都(075)三四三三四(一六〇番)



宮司の先導にて本殿へ向われる

梅雨も明け、夏の日差しが一段と強くなった。七月十九日(土曜日)、七月十九日(土曜日)に、皇太子殿下が当大社を御参拝された。
 皇太子殿下は、皇太子殿下の第二皇子で、御歳二十歳。学習院大学政治学科に御在籍で、昭和六十一年六月には、山階鳥類研究所総長に御就任されている。御趣味はカメラで、長身の容姿端正な若宮様であられる。
 殿下の御来福は、七月二十日北九州市にて開催された、「海の記念日・第一回海の祭典」に御臨席されることになったが、当大社は天照大神の御子神である三女神をお祀りして、特に皇室との縁も深く、昭和五十八年五月十五日には、皇太子殿下・同妃殿下の行啓を仰ぎ奉るなど、たびたび皇族が御参拝されていることもあり、今回の御参拝となった。
 当日午後二時五十分、宮司以下全職員並びに、吉本弘次、永倉三郎両責任役員を始め、特別崇敬者、地元総代など一般奉迎者約五百名がお迎え申し上げる中、殿下のお召車が、馬場参道神門前に御到着、お車より降りられた殿下は、整列し

の説明を受けられながら、御熱心に御覧遊ばされた。殿下は特に沖ノ島の祭祀について、御興味をお持ちの御様子で、古代祭祀や島での神職の奉仕などについて御下問遊ばされた。
 神宝館での御見学の後、儀式殿の便殿にて、御休憩遊ばされ、福岡銘産の八女茶と博多銘菓で御接待申し上げた。
 定刻午後四時、殿下は当大社全職員並びに多数の奉送者、お送り申し上げる中、御機嫌麗わしく当大社を御出発になられた。



沖ノ島出土の御神宝を御覧になられる

宗像大社御参拝御日程

御着発時刻 (所要時間) 御 細 目

時・分

14:50 お召自動車御着
 お出迎え 権宮司 宇都宮 尊
 御先導者 宮司 葦津嘉之
 特別奉迎者 二百三十名

御 参 拝

15:03 神宝館御着
 御先導者 宮司 葦津嘉之
 神宝館御発

15:13 御先導者 宮司 葦津嘉之

15:25 御休所(儀式殿)御着
 御 休 憩

15:58 御休所(儀式殿)御発
 特別奉送者二百三十名

16:00 お召自動車御発



沖ノ島の模型を前に御説明申し上げる



境内をお進みになられる殿下

大祓式・夏越祭齋行

茅輪を潜って祈る無病息災



と、古歌三首を唱和しながら大茅輪を三度潜り、罪穢れを洗い除けた。

引き続き、拝殿へと参進し夏越祭が斎行された。

神前には御饌・神酒をはじめ海川山野の幸が供えられ、国家皇室の安泰と繁栄、又氏子崇敬者や人形に寄せて大祓神事を申込まれた崇敬者の方々の健康と交通安全・業務繁栄・災難消除を祈念する祝詞が奏上された。

続いて、巫女による豊栄舞が奉納され、夏恒例の大神事は滞り無く終了した。

また、全国より寄せられた人形も厳粛なお祓がなされ、古儀に従い、女界の洋上に流棄された。



「御礼」

当大社恒例の夏越祭神事斎行に当りましては、宗像市・郡内氏子各位並びに全国崇敬者の皆様より、多数の人形をお寄せ戴き、お蔭を以ちまして、祭典は天候にも恵まれ滞りなく、盛大裡に斎行致すことが出来ました。

ここに誌上を以ちまして謹んで御礼申し上げます。

昭和六十一年盛夏

宗 像 大 社
宮 司 葦 津 嘉 之

献米袋配布並に取纏め御礼

昭和六十一年度、宗像大社夏越大祓式斎行に当たり、市・郡氏子各位への献米袋配布並に取纏めにつきましては猛暑の中、御協賛を賜り厚く御礼申し上げます。

祭典は例年にもまして盛大厳肅に斎行致すことが出来ました。

茲に謹んで紙面を以ち感謝の意を表します。

昭和六十一年八月吉日

宗 像 大 社
宮 司 葦 津 嘉 之
宗 像 大 社 氏 子 会
会 長 山 本 三 吾

献詠短歌大会御案内

第十五回宗像大社献詠短歌大会を左記要項にて開催致しますので御案内申し上げます。

期日 昭和六十一年十一月八日、午前十時開始

会場 宗像大社清明殿

主催 宗像大社歌会

後援 毎日新聞社

※募集要項

〆期日 昭和六十一年九月五日消印有効

作品 一人一首 未発表の自由詩一首 原稿用紙に楷書で明記(住所氏名を付記の事)

講演 講師 持田勝穂先生

午前十時三十分～十一時三十分

選者 久原喜衛門 持田勝穂 中西輝磨 中村吉郎の各先生にお願いしております

会費 千円、他に七十円切手貼付の封筒一枚(住所、氏名記入) 同封のこと

(献詠送付の折定額の小為替又は切手にて納入下さい。)

賞 選者賞四名、互選賞八名、佳作十名(但し当日出席者に限りませ)

送付先 〆八一―一三五 福岡県宗像郡玄海町田島

宗像大社社務所内 献詠短歌大会係宛

第三〇一回 宗像大社歌会詠草

毎月末日 〆切 中村 吾郎 選

大島 目原 節子
人地えし昼の浜道孫とゆく
老翁の声天にしみこむ
(評) 感覚豊か。「天にしみこむ」に無理を感じさせないのは、二句の確かな表理のゆえであらう。

自由ヶ丘 後藤君代
由布の嶺を放れし雲が草原に
影先だてて移りゆくなり
(評) 印象鮮明。透明感をもつということは作者の心の中も透明である筈。そうではなくては叶わぬ。

田 久 立花 勇雄
雨催ふ軒端を騒く出入りし
て果つくる燕嘴(はし)に
泥もつ

(評) 鳥類ながら此処にも懸命の営みがある。「嘴に泥もつ」が胸を衝く。作者は是を見逃さなかつた。

大島 中村さつき
夫看とるために放置せる蜜柑
山採る暇もなく蜜柑黄に照る

大島 屋形とみえ
いま閉つた父の櫛を離れが
たく花に埋まりし唇をなつ
増す

原 町 八波 五月
去年の果に帰ってひなを解
したりつばめも我も年一つ
増す

池 田 永富 珠
溝川のとまりに放ちし大き
鯉しばらく泳ぎ草かけに入
る

池 田 小田 イセ
棚に置く古新聞を置みて
見落しをりし記事の目に付
く

東 郷 藤崎 辰子
扉際の柿まで飛べず果立ち
たる鴨が藤棚のうへに止り
ぬ

武 丸 立石ろせ乃
仏前に亡夫の好みし苧菜を
供へて香焚く五月の忌の日

鐘 崎 安永 久子
数日を病院に臥す梅雨晴れ
に小鳥のさえずる声の親し
さ

通 堂 木梨ヨシノ
最終の渡船に並ぶ人の群員
など持ちて潮の匂う

宮 田 片山 朝子
災害をもたらしていつこの
瞬間も夜半よりの豪雨(あ
め)午後ふりつ

吉 留 白木うめ
砂を巻き吹きあげて来る春
嵐海辺の家の大方閉ざす

田 熊 力丸 一郎
梅雨明けをまつ庭の辺に山
百合の紅ひと群が朝日に映
ゆる

香 椎 桜井 ツ子
はととぎずに替りに日ぐら
しの声澄り七月廿一日涼
しき朝に

八幡西 山田 耕夕
牛蛙喉大く鳴けど側溝の汚
水に居れば人の見むかす

徳 重 石松や寿子
鬱蒼と青葉のしげる前の山
梅雨の晴間に鶯のなく

名古屋 野崎 博三
農継てたがやしす祖伝土
(ちろろ)なる祖先の魂土
にひそめり

戸 畑 田中ハツセ
高取のお茶の風炉釜求めし
は鉄製品を供出せしあと

池 田 小田しめ
五月雨に水高ませる河口辺
に上潮寄りてびたびたと鳴
る

津屋崎 山口 たき
雨あがり杉の葉先にやどる
露虹によく似て七色に映ゆ
る

原 町 中村 幸
人々の去りて久しき炭住が
朽ちゆくま打ち捨ててあ
る

深 田 中野 節子
雨あとの濁流に人の投網せ
り息はずみ待つに鯉のはね
をり

曲 天野トモエ
精魂を込めて吾の描きたる
鱧鮠は友の病歎はむ

残暑御見舞申し上げます



技術と信頼で明日を創る

- ・電気設備工事
- ・空調設備工事



株式会社 旭電設社

代表取締役 藤澤弘佳

〒812
福岡市博多区博多駅東2丁目9番13号
電話 (代表) 092-441-2958

株式会社 松延商事

代表取締役社長 松延慶治

八女市大字高塚705
TEL 09432-4-2155

ハナダ写真館

代表者 山下孝男

福岡県宗像市大字東郷一〇三一
TEL (0942) 361-2009 九代

有限会社

大和印刷所

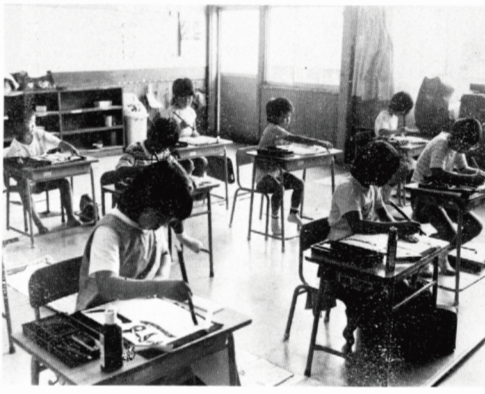
代表的場重徳

宗像市大字田熊
TEL (0942) 361-2027

第三十一回

中津宮七夕揮毫会

子供達にとって待ちに待った、夏休みに入ってきた。七月二十三日(水)、宗像大社中津宮の恒例行事である七夕揮毫会が、大島好の触れ合いの機会でもあり、今年もこの揮毫会に開催された。



子供達にとって待ちに待った、その成果を發揮する晴れ舞台である。七月二十三日(水)、宗像大社中津宮の恒例行事である七夕揮毫会が、大島好の触れ合いの機会でもあり、今年もこの揮毫会に開催された。

当大社の神徳発揚に 多大な功績を残された 田中富樹氏逝去



氏は地元玄海町多礼に居住され、永年当大社の総代として御尽力を賜われと共に、昭和五十二年三月に結成された、宗像大社主催地方風俗舞保存会々長に、結成と同時に就任され、昭和五十八年三月には宗像大社氏子会副会長並びに当大社責任役員に就任されました。風俗舞保存会々長は昭和五十九年十一月に勇退されましたが、敬神の念篤くお祈り申し上げます。

ら心配顔で選定を見守り、塾生達の入賞に一喜一憂していた。午後三時には全審査が終了し、入選作品は中津宮神門廻廊に展示された。一方、中津宮照海殿前の海岸では、審査発表までの間、子供達の海水浴を兼ねて、恒例の「さざえ」拾いが行われた。海水浴に着替えて、先程までは半紙と真剣ににらまっことしていた子供達も、張りつめた雰囲気から解放され、うってかわった表情で夢中さざえを拾ったりと、楽しそうに一時を過ごしていた。

- 北島 みさ(筑後中2)
(宗像大社司書)
山本真由美(赤間西小3)
山本 泰央(城山中1)
(宗像市長賞)
阿部真里代(津屋崎小6)
加藤 幸子(福岡小5)
吉田 容子(東郷小5)
矢崎 大介(赤間西小5)
永野 千景(日の里西小5)
中野 正和(玄海中1)
(ヒロカネ賞)
中村 ゆか(那珂南小1)
とりすみず
古賀美喜子(玄海小3)

清書を終えた作品は早速中津宮社務所の受付に提出され、全作品が揃ったところで中津宮の神前に奉獻された。参加者一同の健康と書道の向上を祈念してお祝いがあった。作品のお蔵いがすむと、ただちに坂口、城戸、吉田三氏の福岡書道会の先方より審査が行われ、各賞が次々と選定された。審査会場には各塾の先生達の顔も見え、遠くから先生達の顔も見え、遠くから選の喜びに溢れ、感激もひとおのの様子であった。

- 川手 崇史(赤間西小5)
北島亜伊子(筑後中2)
(大島村長賞)
吉田貴美子(筑紫野中1)
中川 剛毅(玄海幼)
吉田真一郎(東郷小1)
津屋 陽子(津屋崎小2)
岡田 美津(津屋崎小2)
矢崎 弘之(赤間西小4)
山本 礼子(赤間西小4)
山本真理子(赤間西小4)
山本 妙子(赤間西小5)
花田 美香(河東中1)
諒山 弘美(津屋崎中2)
(書道会賞)
田中ふみえ(吉武小1)
永島 美記(勝浦小2)
河野 美鈴(玄海小3)
熊谷かおり(三筑小4)
竹本 郁美(赤間小5)
中村 貴子(福岡小6)
宗岡 守美(福岡東中1)
宗岡 千晶(福岡東中1)
小野 仁美(福岡中2)
(尚文堂賞)
東村 光英(玄海小3)
吉原 美奈(玄海小3)
山下 千晴(吉武小3)
本田 道生(志岐南小4)
田村 裕美(新宮小4)
吉畑 智子(津屋崎小4)
磯部 真治(津屋崎小4)
岡田 寛(津屋崎小2)
永島 りえ(勝浦小2)

社務日誌抄

- 七月一日 月次祭
出光興産福岡支店取締役支店長林史郎氏参拝就任奉告祭参行
臨時職員会議
七月二日 三井建設九州支店・三井建設九州三栄会・三井道路橋参拝
七月三日 宗像大社氏子会評議員会
宗像警察署田端署長外三名参社
七月四日 出光エンジニアリング機庫事業所瀬尾一大郎氏参拝
出光興産取締役総務部長渡辺茂太郎氏・福岡教育大学安永学長外三名参社
七月六日 京都石清水八幡宮講社員七十名参拝
七月八日 福岡県警木村木部長外参社
七月九日 白石石油備蓄基地棟社長妻鹿島氏外一名参拝
福岡県警備部長・宗像警察署田端署長外五名参社
七月十日 出光興産機庫製油所長白木徳一郎氏外三名参拝
七月十二日 宗像大社菊花会役員会
七月十三日 宗像大社菊花会運営理事会
出光スタンド協力会境内清掃参社
七月十四日 出光タンカー一社社長白岩正豊氏外二名参拝
伊藤要太郎氏・清水建

残暑御見舞申し上げます



みなとタクシー 株式会社
代表取締役 古野 浩
宗像営業所 宗像市土穴三九八一三三
TEL 0940-1331
宗像郡玄海町神湊・鐘崎
TEL 0940-1611
宗像郡玄海町 宗像大社前
TEL 0940-1611

新星交通有限公司
代表 森 義 久
宗像市 大字 東郷
東郷営業所 (094) 361-1138
赤間営業所 (094) 311-3038
神湊営業所 (094) 621-0100

宗像西鉄タクシー 株式会社
代表取締役 中村 直 弘
社長 熊谷 実
支配人 熊谷 実
宗像市自由ヶ丘二一七三
TEL (094) 311-4131

宗像グリーンタクシー 有限会社
代表取締役 藤瀬 将 俊
社長 藤瀬 将 俊
宗像市大字河東一三二二
TEL (094) 311-3131

宗像平和タクシー 株式会社
代表取締役 塩川 弘 昭
宗像郡福岡町二七二八一三
TEL (094) 211-0040

宗像大社歌会
俳句作品集(三)

鐘崎 岩嶺 辰夫
子の丈より沖には出でず海
水浴

福岡 広渡一寿軒
冷酒の利きて無口を長話し
されて保存処理して

田熊 力丸 一郎
夏至の暮植田の水の光りけ
り

津屋崎 井浦 良介
山笠へ打ち砕かる、清い水
く

名古屋 野崎 傳三
赤とんぼは関守石を越えてゆ
く

津屋崎 西住喜三郎
雨受けの桶に音あり明易し
く

福岡 二宮 末子
母鹿といつて不安のないりり
り

香椎 坂矢クニコ
胸にじんときる賀状書きお
え十八時

池田 小田しめ
青田吹く風に草矢をととし
けり

藤沢 井上 玄洋
青竹に幣ひるがへる海開き
き

福岡中央 力丸玄風
山荘の水首深き浜石
り



(続)

浜の奇物

11

いしいただし

元興寺文化財研究所に出
されて保存処理して
丸木舟が帰ってきて、展示
されていた。本展示の
メインでもあります。乾燥
処理で、杉材の見事な木目
が印象に残りました。長さ
六・八メートル、最大幅六三
センチ、深さ二六・三〇セ
ンチ。この展示に関連して
各地から出土した丸木舟や
写真も展示されていました
が、鳥浜のものほどのよ
りも保存状態もよく、完成
度も高く感じました。こ
丸木舟が三方湖をすべるよ
うにして、日本海の外海へ
出て行ったことでしょう。
その漕ぐ漕ぐだけでも六〇本
ほど発掘されています。
ヒョウタンも展示されて
いました。ヒョウタンは既
に草創期(二万年前)の層
から出土しているといま
すから、我が国への渡来は相
当古くさかのぼるといえま
しゅう。このヒョウタンの
はクビがないのもです。
それは明らかに石器で切っ
たり、一部は加工されたり
して、数十点もあります。
容器として使用されたもの
でしょう。ヒョウタンの原
産地はアフリカのニゼール
地方といわれ、それが赤道
海流で南米へ。また一方は
インドから東南アジアへ。
タイの遺跡からは一万〇
〇〇年前のものも出土して
いるといわれています。恐らくそ
れは中国へ、そして日本に
は縄文時代の草創期に伝わ
っているのです。鳥浜を二
三千年掘りつづけた森川昌
彦氏は「一連の栽培植物
は、確実に農耕の黎明を示
しているといえるが、私は
海流によつて偶然、種子が
運ばれたというのではな
く、日本海を北へ南へと航
海した縄文人、あるいは大
陸からの渡来(海)人の存
在を想定せざるを得ない状
況にあると考える。」(日本
の古代4、鳥浜貝塚人の四
季)といっています。
念願の椰子も展示されて
いました。ココヤシの内果
皮です。展示は三個体分
で。アクリル容器の中に二片が
水につけてありまして。そ
して一片は乾燥させてあ
り、端に集めたような跡が
見えました。一九八三年度
の「鳥浜貝塚の発掘調査報
告の四(一九八四刊)」を
振ってみると音がする。
外果皮を剥いでみた、堅い
が同伴して出土してきた。
銅剣と銅矛が別途に出土す
る例は多いが、一つの墓墳
に同一に副葬され、出土し
てきたことは非常に珍し
い。また柄の下端の両側に
耳孔がついていて、「双耳
」の例がほとんどなく、銅
矛は片耳が普通である。
「双耳」の出土は、佐
賀県唐津市の庚申山のカメ
棺墓から一本と、朝鮮半
島金海遺跡から一本の出土
例だけであり、共に長さ約
四十七センチ、幅三センチ
大形化した、やや時代が下
がるものと言われている。
今回発見された銅剣は長
さ二十七センチ、幅三セン
チの細銅剣である。銅矛
の方も長さ二十一・五セン
チ、幅三センチの細身であ
り、直径約三ミリの半円リ
ングを両方につけた、狭鋒
銅矛(きょうぼうぼうし)と
呼ばれ、双耳の矛として

古代史探訪

宗像の生活址

宗像市久原地域

(20)

先月号につづいてくる
が、中国の前漢の時代(約
二〇〇年前)に作られた
じめた青銅製の鏡が、日本
では漢式銅鏡と呼ばれてい
る。これらの鏡の出土例が
きわめて少ない宗像市で
現在調査中の「久原古墳群
」の墳墓の中から一面の
鏡が出土してきた。この古
墳は五世紀前半代に比定さ
れており、木棺を埋葬施設
としている。
こころ出土した鏡は、
内行花文鏡といわれる。花
弁のような半円形が、内
向きに連なつた花柄状を
呈した鏡で、「君・宜・高



残暑御見舞申し上げます

福栄タクシー
代表取締役 保井 久
副社長 保井 享
宗像郡福岡町二六三三
TEL 0941-421-0373

美松タクシー
代表取締役 塩川 弘昭
宗像郡津屋崎町新川端
TEL 0941-511-0115

総合建設業
株式会社 弘江組
代表取締役 中野 弘愛
事務所 福岡県宗像市大字稲元055
電話 0940-311-3918

総合結婚式場
のみ会館
取締役社長 野上 藤三郎
飯塚 飯塚市新立岩一三三
0948-1313840
宗像 宗像市大字土穴四六一
0940-1311355
筑紫 筑紫野市大字塔の原九六九
0921-931221

宗像グリーンセンター
株式会社
代表取締役 瀧口 潤一郎
福岡県宗像市大字稲元九〇五
TEL 0940-3312271

H・M